

コウノトリ

所在地 千葉県内（地域を定めず指定）

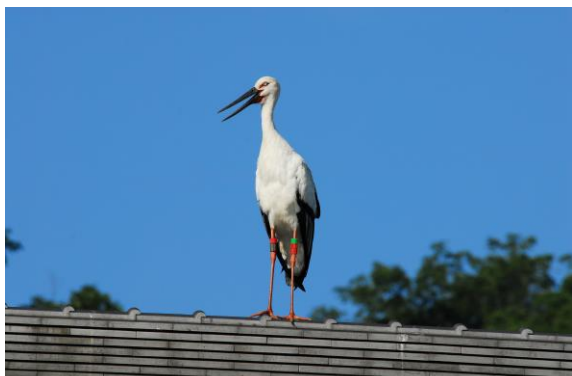
昭和28年3月31日指定
昭和31年7月19日特別天然記念物指定

絶滅が危惧される希少な鳥

コウノトリは、江戸時代までは、広く日本全国に分布していましたが、密猟や環境汚染などが原因で、次第にその数を減らし、昭和46年(1971)に国内の野生繁殖個体は消滅しました。その後、1980年代後半に、国内の動物園などで人工繁殖に成功し、平成17年(2005)にはコウノトリの郷公園が野外への放鳥を開始し、コウノトリの野生復帰が実現しました。

コウノトリは、日本の代表的な大型鳥類であり、立った状態では高さ約100～110cm、翼を開いた長さは200cmにも及びます。くちばしはまっすぐで黒く、目のまわりと脚が赤っぽい色をしています。湿田で小魚やカエル類、爬虫類、昆虫類を採り、主に松などの高木で営巣を行います。しかし、近年では宅地の屋根や電柱でも営巣します。一夫一妻でテリトリーを形成して繁殖し、造巣、抱卵、育雛を雌雄共同で行います。卵は抱卵開始後、約30～40日で孵化し、孵化してから約50～70日後に幼鳥が巣立ちます。

千葉県野田市では、平成27年(2015)から飼育個体の放鳥を開始し、千葉県内でもコウノトリがみられるようになりました。



コウノトリ(「兵庫県豊岡市フォトライブラリー」より引用)